

# 環境活動レポート

【 運用期間:2016年4月～2017年3月 】



大井川鉄道

## 自然の景観を守る事業活動を展開

発行:2017年4月21日

有限会社 真永

# 目 次

I. 組織の概要

II. 実施体制

III. 環境方針

IV. 環境目標

V. 環境活動計画及びその取組結果と評価、次年度の取組

VI. 環境目標の実績

VII. 当社の取組

VIII. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果

IX. 代表者による全体評価と見直し結果

# I 組織の概要

## ① 事業所名及び代表者名

有限会社 真永  
代表取締役 永田 静夫

## ② 所在地

本社(登記のみ) 静岡県静岡市駿河区下川原2-18-5  
焼津工場 静岡県焼津市利右衛門2720-1

## ③ 会社履歴

法人設立 2003年5月  
資本金 400万円

2003年 コンサルタント・アウトソーシング会社として設立  
国内医療機器メーカーのCT用機器部品

2004年 国内自動車部品蒸着製造会社の経営改善

2005年 樹脂・金属部品塗装事業を焼津市に設立

2016年 曲面印刷機械導入  
エコアクション21認証登録 (登録番号0011279)

## ④ 環境管理の責任者及び担当者氏名・連絡先

環境管理責任者 永田 真也 (工場長)  
担当者 土屋 公美子  
連絡先 TEL: 054-622-4857  
FAX: 054-270-6969  
E-mail: shinei@vc.tnc.ne.jp  
URL: <http://www.shinei-toso.co.jp>

## ⑤ 事業活動

自動車部品等塗装事業  
曲面印刷事業

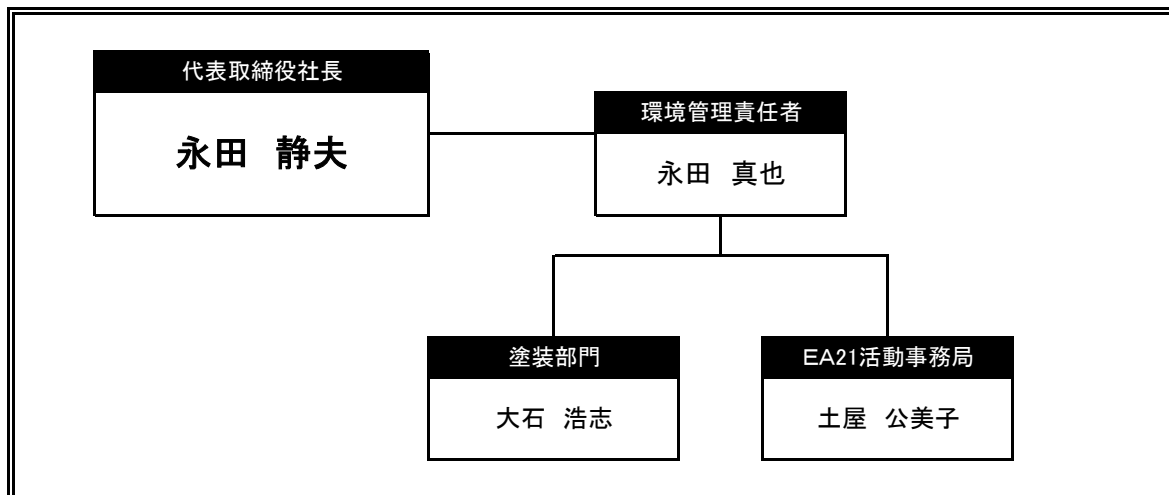
## ⑥ 事業の規模(事業年度: 当年4月～翌年3月)

売上高 300百万円  
従業員数 18名  
工場面積 480㎡

## ⑦ 認証・登録の対象範囲

活動 全事業活動  
活動組織 焼津工場

## II 実地体制



対象範囲：全組織・全活動

### ≪ 環境管理組織における機能 ≫

#### 代表取締役社長

- ①環境経営全般に関する責任と権限
- ②環境方針の作成と社員への周知
- ③実施体制と構築と経営資源の準備
- ④環境経営システム全体の評価と見直し

#### 環境管理責任者

- ①環境経営活動の推進
- ②環境目標及び環境活動計画の作成
- ③環境活動報告の作成と環境活動計画の作成
- ④取組状況の社長への報告

#### EA21活動事務局

- ①環境負荷データのまとめ
- ②環境目標及び環境活動計画の進行管理
- ③環境負荷・環境への取組の自己チェックの実施
- ④環境管理責任者補佐
- ⑤法規制最新版管理
- ⑥文書・記録の管理

#### 塗装部門

- ①環境計画の実施
- ②月毎のデータの集計
- ③問題点の把握と是正の実施
- ④取組状況の事務局への報告
- ⑤部門社員教育

## Ⅲ 環境方針

### 環境基本理念

有限会社真永は地球環境の保全を人類共通の重要課題である事を認識し、当社の事業活動において環境問題に対する自主的な配慮とその継続的改善を实践する為の取組を推進いたします

### 環境方針

この理念のもと、当社が行う塗装事業における企業経営の重要課題の一つと位置づけ、環境に与える影響を的確にとらえ環境汚染の予防に努めます

- ①事業活動の中で、省エネルギー・省資源・グリーン調達を推進に努めます
- ②工程内で発生する加工不良の低減を推進し、廃棄物の削減に努めます
- ③環境関連法規等を遵守吸います
- ④環境方針を遂行する為に、環境目標及び環境活動計画を設定し、必要があれば見直すなどの効率的な取組みを行います
- ⑤この方針を達成する為に、全社員に環境教育を行い、広報活動を実施して、環境に関する意識向上に努めます

平成27年10月1日制定

有限会社 真永

代表取締役

永田 静夫



## IV 環境目標

### 2016年度環境目標

項目	単位	2014年(基準)	2016年度		
二酸化炭素	Kg-CO2	97921	93025		
内訳	購入電力	kWh	190035	180533	
	ガソリン	L	2437	2315	
	軽油	L	831	789	
	LPG	Kg	3545	3368	
廃棄物排出量					
内訳	産業廃棄物	t	4.09	3.88	
	一般廃棄物	現状把握に努める			
水使用量	生活用水だけであるので、削減数値は立てず節水に努める				
グリーン購入の推進	目標数値を設定せず、実績値を把握する				
化学物質使用量	実績値を把握し、適正使用量を把握管理する				

購入電力二酸化炭素排出係数 中部電力(2016年)の「0.486Kg-CO2/kWh」

### 短期・中期環境目標

項目	単位	2014年(基準)	2017年度	2018年度	2019年度	
二酸化炭素	Kg-CO2	97921	90087	89108	88129	
内訳	購入電力	kWh	190035	174832	172932	171032
	ガソリン	L	2437	2242	2218	2193
	軽油	L	831	764	756	748
	LPG	Kg	3545	3261	3226	3191
目標基準年度比率			△8%	△9%	△10%	
廃棄物排出量						
内訳	産業廃棄物	t	4.09	3.88	3.72	3.68
	一般廃棄物	現状把握に努める				
水使用量	生活用水だけであるので、削減数値は立てず節水に努める					
化学物質使用量	実績値を把握し、適正使用量を把握管理する					

購入電力二酸化炭素排出係数 中部電力(2016年)の「0.486Kg-CO2/kWh」

## V 環境活動計画及び取組結果と評価、次年度の取組

目標	項目/区分	責任者	活動項目	評価		次年度の取組
				内容	内容	
二酸化炭素の削減	購入電力/照明	永田	①消灯の徹底(1回/日チェック)	○	徹底	継続
	購入電力/空調	池谷 日浦 大石	①温度設定夏26℃ 冬25℃	○	徹底	継続
			②プレフィルター定期清掃(1回/月)	○	徹底	継続
			③ロボット塗装終了時の空調停止	○	徹底	継続
			④ロボット塗装終了15分後の給気装置停止	○	徹底	継続
	購入電力/コンプレッサー	池谷	①ロボット塗装機電源とコンプレッサー電源同期OFF	○	徹底	継続
			②コンプレッサー定期点検(1回/月)	○	徹底	継続
			③エアー漏れ定期点検(1回/月)	○	徹底	継続
	軽油/トラック・リフト	永田	①アイドリング禁止	○	徹底	継続
			②急発進・急加速の禁止	○	徹底	継続
LPガス	日浦	①休憩時停止/塗装最終ハンガー+10で電源停止	○	徹底	継続	
廃棄物排出量の削減	産業廃棄物/プラスチック	大森	①加工不良の低減	△	品種により多発	課題の抽出
			②流出不良の低減	△	品種により多発	課題の抽出
	産業廃棄物/塗料汚泥	浅羽	①使用済みシンナーのリサイクル化	○	徹底	継続
			②塗料汚泥の天日干し	○	徹底	継続
	一般廃棄物/紙	土屋	①コピー紙の両面使用	○	徹底	継続
			②封筒の再利用	○	徹底	継続
	一般廃棄物/ビニール	大塚	①リサイクルの徹底	○	徹底	継続
水使用量の削減	上水	小形	①水漏れの点検(1回/月)	○	徹底	継続
		全員	①節水の徹底	○	徹底	継続
リサイクルの推進	買取/プラスチック	日浦	①廃シンナー全量回収装置使用によるリサイクル	○	徹底	継続
化学物質		調合者	①個当り使用量と調合量の把握	△	不十分	徹底
		土屋	②使用量の把握	△	不十分	徹底
グリーン調達		土屋	①グリーン調達の実績把握	△	不十分	徹底

## VI 環境目標の実績

### 運用期間実績

項目	単位	2014年基準	2016年目標(A)	2016年実績(B)	削減率(B/A)	
二酸化炭素	Kg-CO2	97921	93025	90592	97%	
内訳	購入電力	kWh	190035	180533	158310	88%
	ガソリン	L	2437	2315	1145.24	49%
	軽油	L	831	789	76.4	10%
	LPG	Kg	3545	3368	2538.2	75%
廃棄物排出量						
内訳	産業廃棄物	t	4.09	3.88	0.199	5%
	一般廃棄物	Kg	-	-	-	-
水使用量	m <sup>3</sup>	296	281	250	89%	

### 原因分析/是正処理

#### 達成

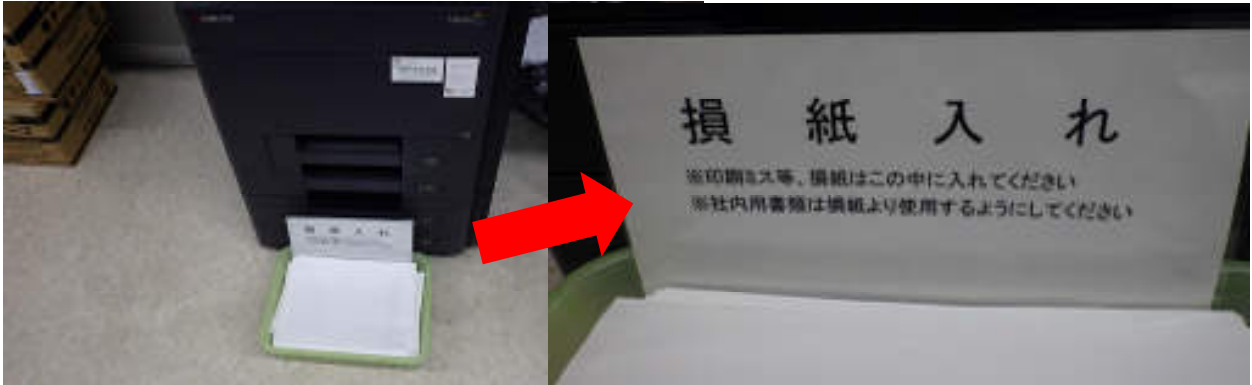
購入電力	使用しない箇所の徹底消灯等、一人一人の意識が高くなり削減できた仕事量の減少も関係している
ガソリン	社用車へのエコドライブ推進表示により、運転者の意識が向上した急ブレーキ・急発進の減少やエアコンの適正温度による
軽油	トラック使用量が大幅に減少したため

#### 未達成




## VII 当社の取組み

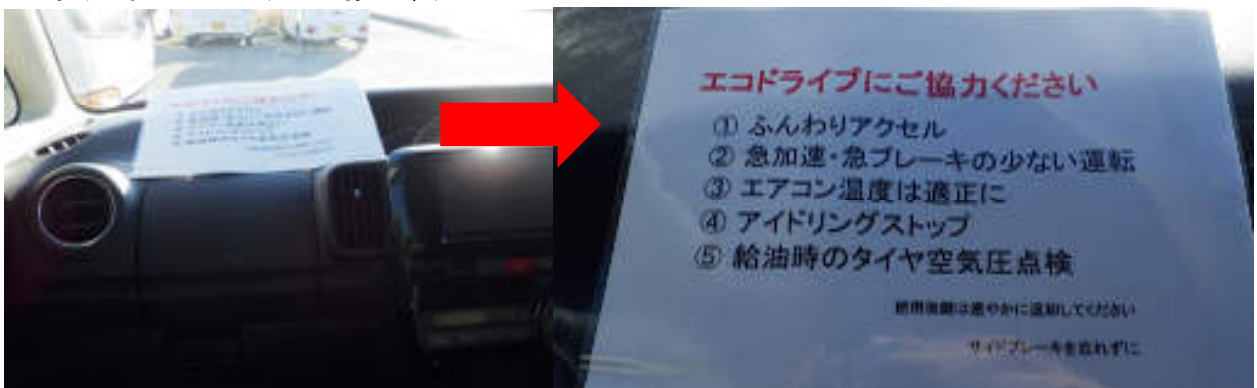
### 損紙の有効活用



### 廃棄物保管場所の表示



### 社用車のエコドライブ推進表示





## Ⅸ 代表者による全体評価と見直し結果

作成:平成29年4月20日

見直し 関連情報	項目		確認(必要に応じて評価・コメント記載)	
	1	エコアクション21文書	<input checked="" type="checkbox"/>	記録・文書として作成
2	環境目標及び目標達成状況	<input checked="" type="checkbox"/>	全体的に達成傾向	
3	環境活動計画及び取組実施状況	<input checked="" type="checkbox"/>	継続して取り組む	
4	環境関連法規要求一覧及び遵守状況	<input checked="" type="checkbox"/>	記録に記載	
5	外部コミュニケーション・対応記録	<input checked="" type="checkbox"/>	特に問題なし	
6	問題点の是正・予防措置の実施状況	<input checked="" type="checkbox"/>	別紙にて騎西	
7	取引先、業界、関係行政機関、その他の外部動向	<input checked="" type="checkbox"/>	特に問題なし	
8	その他( )	<input type="checkbox"/>		

代表者による 全体評価・見直し 指示	<p>2016年度の環境活動は、目標をほぼ達成することが出来た。</p> <p>購入電力については、工場内「水銀灯」の点灯か所を4か所から1か所に変更したこと、及びLEDへの一部切替による効果と考えます。</p> <p>ガソリンについては、ハイブリッド車及び軽自動車エコカーの変更にしたことによる効果です。</p> <p>又軽油については、材料支給便の戻り便を利用して頂くことで大幅で削減することが出来ました。</p> <p>LPGについても、着火消火の記録を記入することで意識が高まり、無駄を削減できました。</p> <p>社員全員が環境活動記録を月に一度事務局へ提出することで、意識も高まり日々活動が定着しています。</p> <p>今後は、目標値に対する達成率が厳しくなると予想されるので、無駄排除の仕組みづくりをしていきます。</p> <p style="text-align: right;">平成29年4月20日</p> <p style="text-align: right; font-size: 1.2em;"><b>代表取締役 永田 静夫</b></p>		
	見直し項目	変更の必要性	「有」の場合の指示事項等
	1	環境方針	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>
	2	環境目標	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 2016年度実績の3%削減を目標とする事
	3	環境活動計画	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 パトロール表を作成し、定期的 に実施する仕組みを構築する事
	4	環境に関する組織	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>
	5	その他のシステム要素	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>
	6	その他(外部への対応)	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>

## 環境上の緊急対策

### 《緊急時対策》

想定される環境における緊急事態について、環境への影響を最小限に食い止めること  
内外への連絡を円滑に行うこと・可能な範囲で事前に想定、準備すること。

また、定期的にその訓練を行う。さらに、緊急事態の発生や訓練の後、対応の評価と改善策を行

想定のパターン	想定される緊急事態	原因	対応策
パターン1	液体可燃物の漏洩	地震	転倒を防ぐ為 チェーンをつけた
パターン2	津波	地震	年2回の避難経路の 確認等訓練を徹底した
パターン3	危険物倉庫の火災	地震等	使用毎施錠の徹底 又、倉庫内に消火器の設置

### 《緊急時訓練記録》 ※参加者は全社員となっています

訓練日	想定される緊急時の状況	原因	対処・訓練等
2016/4/29	危険物倉庫の火災 又はそれに伴う漏洩	地震(落下) 自然発火	消火器の使用の確認 落下を防ぐため、棚にチェーンをつけた 棚が倒れないように固定した
評価と改善策			
自然発火・放火を含め火災発生時に冷静に対応できるよう、消火器使用方法を確認したが使用方法を知らないものがほとんどで、意識の低さが露呈した。普段消火器を手にする機会が少ないことが要因のため消火器設置場所にイラストで使用方法を掲示するようにした			

訓練日	想定される緊急時の状況	原因	対処・訓練等
2016/8/13 2016/12/17	津波	地震	避難場所までの経路確認 就業中の災害に対する対処
評価と改善策			
これまで行ってきた避難するだけの訓練ではなく、就業中に起こった災害に対する対処を行った。基本的には各個室で作業をしているため、身の安全はもちろんだが外への避難経路の確保が重要になるため今回は重点においた。また避難経路の確保のために扉の周りに棚や物を置かないよう配置換えをした通路に棚を置く際は、倒れないよう措置を検討する			